

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	いろは2 児童通所支援（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	R6年12月1日		～ R6年1月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 5
○従業者評価実施期間	R6年1月6日		～ R7年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムの多様性	個別の療育（学習・作業療法・脳バランサー・マッチング他）や全体療育（小集団におけるプログラムやグループワーク）を準備し、いろんな経験が積めるよう取組んでいます。	常に情報を収集し、新しい事にもチャレンジしていけるよう取組んでいきます。
2	多機能型により幅広い年齢のお友達と関わることが出来る。	グループなどの活動を通して年上の子が年下の子に声掛けし、意見をまとめたり、アドバイスをしたり、リーダーシップを発揮するなどの役割分担ができ、次のステージへの心づもりが持てるよう取組んでいます。	一人ひとりの出来るに着目し、活動の幅が広がるような役割作りや場面の想定を考えながら充実した活動になるよう取組んでいきます。
3	SNSの使用等による、コミュニケーションツールの使用	元々は災害時の連絡用としてご登録いただいたものですが、電話や口頭が難しい時でも連絡を取り合えるコミュニケーションツールとして有効活用出来るようにしています。	安全に活用していけるよう、注意を払いながら運用していきたいと思っています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が少ない。	放課後児童クラブや児童館との交流の機会は作れていない状況です。活動の時間的に難しい面もあり、移動手段、駐車場等の課題をクリアすることが難しいことが要因だと考えています。	保護者の方の要望などを伺いながら、必要とされている交流の方法などを検討していきます。
2	保護者同士の交流の機会が少ない。	コロナ渦や感染症のリスクを考え、なかなか開催が出来て来なかった事が要因かと思われます。	保護者の皆さんのニーズに応じた開催方法を検討していきます。
3			